

|                                |   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
|--------------------------------|---|---------|----------------------------|-------------|---------|----------|---------|-----------|---------|
| 1. 科目名 (単位数)                   | 死生学 (2単位)   | 3. 科目番号 | GELA1352<br>GELA1332       |             |         |          |         |           |         |
| 2. 授業担当教員                      | 鈴木 康明   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 4. 授業形態                        | 講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。   | 5. 開講学期 | 秋期                         |             |         |          |         |           |         |
| 6. 履修条件・<br>他科目との関係            |   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 7. 講義概要                        | Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとそこのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 8. 学習目標                        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。</li> <li>2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。</li> <li>3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。</li> <li>4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。</li> <li>5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。</li> </ol>  |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 9. アサイメント<br>(宿題) 及びレポ<br>ート課題 | 宿題：新聞、インターネットなどから幅広く「生命の尊厳」に関する情報の収集を行い、それについての自分の意見をまとめる。<br>レポート課題：死生学の講義を通し、関心をもった事柄を取り上げ内容と自分の考えをまとめる。<br>A 4 40字×40行、2枚程度  |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 10. 教科書・参考書・<br>教材             | <b>【教科書】</b><br>鈴木康明著『生と死から学ぶ』北大路書房。<br><b>【参考書】</b><br>鈴木康明監修『いのちの本』学研。<br>若林一美著『死別の悲しみを超えて』岩波書店。  |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 11. 成績評価の規準<br>と評定の方法          | ○成績評価の規準<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 死生学に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。</li> <li>2. 肯定的な人間観、人生観を形成するための努力をしようとしているか。</li> </ol> ○評定の方法<br>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。] <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の60%</td> </tr> <tr> <td>3 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>  |         |                            | 1 授業への積極的参加 | 総合点の20% | 2 課題レポート | 総合点の60% | 3 日常の学習状況 | 総合点の20% |
| 1 授業への積極的参加                    | 総合点の20%   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 2 課題レポート                       | 総合点の60%   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 3 日常の学習状況                      | 総合点の20%   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 12. 受講生への<br>メッセージ             | パスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかつたので、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べておられます。しかし、だからこそそれらについて受講者と考えてみたいのである。そのためには受講者一人一人の思考力、創造力、問題解決能力が必要であり、その形成を目指し、次の事柄を遵守することを望む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。</li> <li>2. 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤しむ。</li> <li>3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。</li> <li>4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。</li> </ol> なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であってもF評価になることを理解しておく。<br>また教員は次のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。</li> <li>3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。</li> <li>4. 受講者の質問には誠実に対応する。</li> <li>5. 受講者が上記のメッセージ1～4が守らない場合、厳格に対処する。</li> </ol> |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 13. オフィスアワー                    | 授業内に周知する  |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 14. 授業展開及び授業内容                 |   |         |                            |             |         |          |         |           |         |
| 講義日程                           | 授業内容  | 学習課題    |                            |             |         |          |         |           |         |
| 第1回                            | オリエンテーション<br>・講義の目的と内容、評価について<br>・受講態度と自己教育力について<br>→座席、私語 etc.   | 事前学習    | 受講動機を確認しておく。               |             |         |          |         |           |         |
|                                |   | 事後学習    | レスポンスシートによる振り返り。           |             |         |          |         |           |         |
| 第2回                            | (1) BEING 今在ること<br>・胎児条項と優生思想を中心に、いのちの「優劣」とはなにかについて考える。<br>→グループワーク 話し合い  | 事前学習    | 教科書 pp. 1～11 を読み要点を整理しておく。 |             |         |          |         |           |         |
|                                |   | 事後学習    | レスポンスシートによる振り返り。           |             |         |          |         |           |         |

|      |  |      |                                      |
|------|--|------|--------------------------------------|
| 第3回  | ・ダウン症と中絶を中心に、存在する「価値」について考える。<br>→グループワーク 討議                                   | 事前学習 | 教科書 p. 12、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。    |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第4回  | (2) NOW AND HERE 今を生きる<br>・生涯にわたる発達と取り上げ、「関係存在」としての人間を考える。<br>→ペアワーク 話し合い      | 事前学習 | 教科書 pp. 20～28 を読み要点を整理しておく。          |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第5回  | ・「青年期」の課題からこれからの自らのあり方を考える。<br>→グループワーク 討議                                     | 事前学習 | 教科書 p. 31、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。    |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第6回  | (3) PILOT 先を生きる人々<br>・「老い」を理解し、高齢者へのかかわりについて考える。<br>→グループワーク 討議                | 事前学習 | 教科書 pp. 40～56 を読み要点を整理しておく。          |
|      |  | 事後学習 | 教科書 pp. 29～31 を読みそれぞれについての意見をまとめる。   |
| 第7回  | (4) SALAD BOWL ともに生きる<br>・異質性の課題から対人関係構築能力と「多文化共生」について考える<br>→グループワーク 演習(ある物語) | 事前学習 | 教科書 pp. 59～67 を読み要点を整理しておく。          |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第8回  | (5) BE THERE ホスピスから学ぶ<br>・悪性新生物と痛みの事柄から、「かかわり」の意味について考える。<br>→ペアワーク 話し合い       | 事前学習 | 教科書 pp. 76～84 を読み要点を整理しておく。          |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第9回  | ・ホスピス緩和ケアの活動からかかわりの意味について考える。<br>→グループワーク 討議                                   | 事前学習 | 教科書 p. 86、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。    |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第10回 | (6) LOST AND GAIN 死別の悲しみ<br>・「悲嘆と哀悼」から、人間存在の意義について考える。<br>→ペアワーク 演習(かかわり技術)    | 事前学習 | 教科書 pp. 104～108 を読みそれぞれについての意見をまとめる、 |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第11回 | ・「グリーフケア」の理論と技術から、対人援助の意義について学ぶ。<br>→ペアワーク 演習(かかわり技術)                          | 事前学習 | 教科書 pp. 94～103 を読み要点を整理しておく。         |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第12回 | (※) 東日本大震災から<br>・自らの「これからの生き方」について考える。<br>→スライド                                | 事前学習 | 2011年3月11日の行動を想起しておく。                |
|      |  | 事後学習 | グループワーク わかちあいの体験                     |
| 第13回 | (7) GIFT 賜物<br>・デス・エデュケーションとグリーフ・エデュケーションの現状と課題について考える。<br>→グループワーク 情報交換       | 事前学習 | 教科書 pp. 118～127 を読み要点を整理しておく。        |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第14回 | (8) WILL AND WISH<br>・臓器移植、「長寿願望」から人間の尊厳について考える。<br>→グループワーク 討議                | 事前学習 | 教科書 pp. 136～144 を読み要点を整理しておく。        |
|      |  | 事後学習 | レスポンスシートによる振り返り。                     |
| 第15回 | (※) ダギーセンターから<br>・親を亡くした子どもの悲しみとかかわりについて考える。<br>→DVD<br>→グループワーク 討議            | 事前学習 | これまでの講義を通して考えたこと、気がついたことをまとめておく。     |
|      |  | 事後学習 | 小論文作成                                |
| 期末試験 |  |      |                                      |